

スマートデバイスを通して見る 20
年後のスマートシティ (実習の進捗発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中野, 玄, 保坂, 大河, Sajeept, Panya, 原田, 将宏 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027435

スマートデバイスを通して見る 20 年後のスマートシティ

中野玄(情報科学科), 保坂大河 (情報科学科) , SajeepetPanya (情報社会学科) ,
原田将宏 (情報社会学科)

近年, スマートフォンを中心にスマートスピーカーやウェアラブル端末などの機器により, 人々の生活や都市のあり方に変化が起きている. 今後も, そのようなスマートデバイスの更なる進化によって人々の生活や都市のあり方も変化していくことが予想される. そこで, 私たちはスマートデバイスの変化を通して人々の生活や都市のあり方の変化を予測する. スマートシティの実現には様々な事業者による多くのサービスや豊富な IoT デバイスからの大量の計算資源が必要とされている (金井ら, 2018). しかし, 現在のデバイスだけではスマートシティの実現には至っておらず, 現状はプロジェクト段階である. 私たちは, 20 年後には大量の計算資源が必要という問題点がスマートデバイスの進化によって解決され, スマートシティを実現できると予測する.

(学習マネジメント,担当教員:宮崎真)